

S-KYT(消防団危険予知訓練)の進め方のポイント

S-KYTの進め方については、p.90で詳細に説明しているので参照されたい。ここでは、なぜこのような進め方になっているのか、特に重要な《導入》《第1ラウンド》及び《第2ラウンド》について、そのねらいを解説する。

《導入》整列・番号、あいさつ、健康確認

「整列・番号、あいさつ」は、S-KYTの話し合いに入るための雰囲気作りのために行う。同時に「整列、番号！」と号令をかけ、そのときのメンバーの様子を見て、声を聞いて一人一人の健康状態を確認する。あまり形式にこだわる必要はない。たいせつなのは、リーダーが個人個人のメンバーに目配りし、適切に対処するのを習慣づけることである。

《第1ラウンド》現状把握……どんな危険が潜んでいるか

危険予知訓練のなかで最も重要視されるのが第1ラウンドである。ねらいは、危険の共有にある。一人一人が気づいたさまざまな危険な状況を、全員が同じようにありありと目に浮かべることができれば、成功である。

例えば、「無理な姿勢で……」とか、「持ち方が悪いので……」とかの抽象的な表現では、それぞれがかってに「無理」「悪い」の状況を思い浮かべることになる。このままでは、互いの「気づき」が共有できない。新しい気づきを共有してこそ、チーム全体の感受性の向上が望める。全員がありありと状況を思い浮かべることができない危険に対しては、たとえ対策を決めたとしても、実行はおぼつかない。第1ラウンドが最も重要だと言う意味は、ここにある。

ただ、メンバー一人一人に初めから具体的な表現を求めるのは困難である。そこで、リーダーが危険要因を上手に引き出すことがポイントになる。「KYTを生かすも殺すも、リーダーの手腕にかかっている」といわれるゆえんである（【実施例】p.89参照）。

《第2ラウンド》本質追求……これが危険のポイントだ

このラウンドのポイントは、みんなで出し合ったさまざまな危険のなかから、最優先で解決に取り組む“危険のポイント”を全員の合意で絞り込むことにある。ただ、単に絞り込むだけであって、ほかの危険を切り捨てるわけではない。誤解のないようにしたい。

【実施例】 第1ラウンド どんな危険が潜んでいるか

リーダー説明 ※イラストシートの状況を読み上げ、メンバーに問いかける。

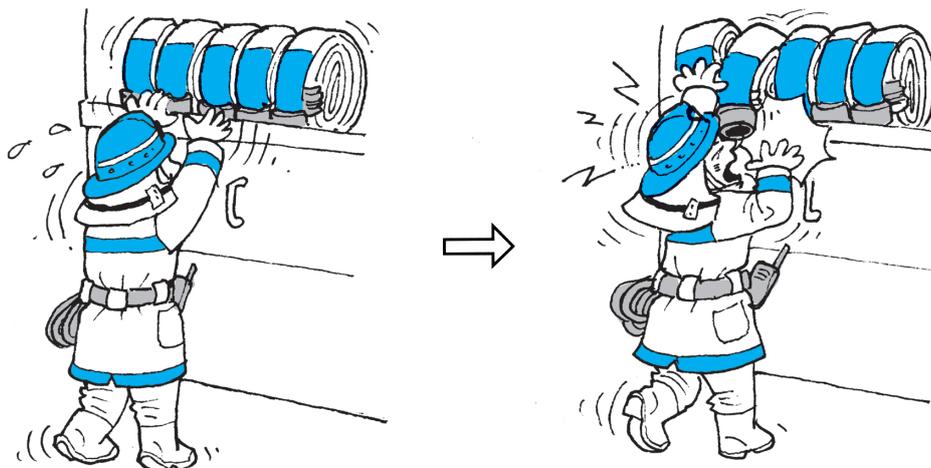
状況：あなたは、火災現場へ出場するため、ホースを収納棚から降ろしている。



(注) 消防本部によってはゆるみ防止のためにホースバンドを使用しているところもある。

チーム話し合い ※リーダーが司会進行の役割をする。

危険要因の現象（事故の型）を想定して、「～なので～して～になる」というように書く。



左の絵の状態から動作することにより、危険要因に発展する。

ここで、絞り込む理由は3つある。

第一は、第1ラウンドで具体化し、共有した一つ一つの危険は、その時点で一人一人の意識の中に植えつけられ、危険に対する感受性の向上に生かされるからである。

第二は、時間の短縮である。絞り込まないで、あれもこれもと話し合うと、どうしても長時間になる。そうすると、S-KYTをたびたび実施することができなくなり、「危険感受性」を高いレベルで維持することも困難になる。

第三は、絞り込まないで対策を立てると、時間がかかるばかりか目標が散漫になり、せっかくの対策が実践につながらないことになるからである。

この絞り込みがあって初めて、S-KYTが現場に即した実践的な手法になる。

表 S-KYT の進め方

導入	[全員起立] リーダー⇨整列・番号、挨拶、健康確認
1 R	<p>現状把握……………どんな危険がひそんでいるか</p> <p>リーダー⇨シートの状況を読み上げ、メンバーに問いかける メンバー⇨気付いた危険を発言する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">“危険要因” と “現象”</p> <p style="text-align: center;">(状態と行動) (事故の型)</p> <p style="text-align: center;">～なので～して ～になる</p> </div> <p style="text-align: right;">3～5項目</p>
2 R	<p>本質追究……………これが危険のポイントだ</p> <p>(1) 重要と思われる項目 → 赤で丸印</p> <p>(2) さらにしほり込み <全員の合意で> ………………1項目 → 赤で◎印・アンダーライン ⇨ 危険のポイント</p> <p>(3) 指差し唱和 リーダー「危険のポイント ～なので～して～になる ヨシ！」 → 全員「～なので～して～になる ヨシ！」</p>
3 R	<p>対策樹立……………あなたならどうする</p> <p>危険のポイントに対して、具体的で実行可能な対策 ………………3項目程度</p>
4 R	<p>目標設定……………私たちはこうする</p> <p>(1) 対策の絞り込み (全員の合意で) ………………1項目 → 赤で※印・アンダーライン ⇨ 重点実施項目</p> <p>(2) チーム行動目標・設定 ………………1項目</p> <p>(3) 指差し唱和 リーダー「チームの行動目標 ～のときは～を～して～しよう ヨシ！」 → 全員「～のときは～を～して～しよう ヨシ！」</p>
確認	<p>(1) 指差し呼称項目・設定 ………………1項目</p> <p>(2) 指差し唱和 リーダー「指差し呼称 ～ヨシ！」 → 全員「～ヨシ！」 (3回)</p> <p>(3) タッチ・アンド・コール リーダー「一人一人大切な団員 ヨシ！」 → 全員「一人一人大切な団員 ヨシ！」</p>

S-KYT・4つのラウンドのねらい

導入 …… 〈ねらい〉 話し合いにはいるための雰囲気作り（形式にこだわる必要はない）

リーダーは、	メンバーは、
『健康確認』 ・メンバー一人一人を観察し、 ・だれか一人に対して名前ですべて具体的に問いかける	アドリブで答える

1 R …… 〈ねらい〉 お互いの気づいた危険の状況を、全員がざらざらと共有する……気づき

リーダーは、	メンバーは、
① イラストの間違い探しではないことを説明する ② イラストの前後の状況・動きも含めて どんな危険が潜んでいるかを問いかける ③ レポート用紙に発言をそのまま記入する ④ 断片的な発言をしたメンバーに対しては、さらに、 「どんな状態で、どんな行動・動作をすると？」と問いかける ⑤ 『危険要因』が具体的にできるよう加筆・訂正する	気づいた危険を発言する 断片的でもよい 「転ぶ」など現象のみでも可 思い浮かべた危険の状況を答える。

2 R …… 〈ねらい〉 最優先で解決に取り組む“危険のポイント”を、みんなの合意で絞り込む

リーダーは、	メンバーは、
(1) ① 重要な危険はどれかを問いかける ② 番号に、赤で○印を記入する（○印はいくつでもよい） (2) ① ○印の中で「最も重要だ！」という危険を問いかける 〈発生頻度の高さ、発生時の被害の大きさ〉 ② 話し合って、全員の合意で危険のポイントを決める ③ 赤で◎印・アンダーラインを記入する	重要と思う項目の番号を 発言する 最も重要と思う項目の番号と理由を発言する
(3) この危険を絶対解決するぞ！ という決意表明	

3 R …… 〈ねらい〉 “危険のポイント”に対する対策のアイデアを出し合う

リーダーは、	メンバーは、
① 対策を問いかける *自由に（否定的・抽象的でも可）発言してもらう	「自分ならこうする」という対策を発言する
② レポート用紙に記入	
③ 話し合いながら ・「～しない」という否定的な対策は「～する」という前向きなものに！ 加筆・訂正 ・“非現実的”な対策は、“現実的”にできることに！ ・抽象的な対策（単に「注意する」など）は、「何を・どのように」と具体的に！	

4 R …… 〈ねらい〉 必ず実行するぞ！という対策を絞り込む

リーダーは、	メンバーは、
(1) ① 最優先で実行しようという項目を、問いかける タテマエやキレイゴトでなく、ホネの対策	「必ず実行する」という項目の番号を発言する
② 話し合って、全員の合意で『重点実施項目』を決める ③ 赤で※印・アンダーラインを記入する	
(2) ① 話し合って、※印項目をさらに具体化して『チーム行動目標』を全員の合意で設定する ② 「～のときは」「何を」「どのように」と具体化してレポート用紙に記入する	
(3) この対策を必ず実行するぞ！という決意表明・誓い合い	

確認 …… 〈ねらい〉 “危険のポイント”に対する“指差し呼称項目”を設定し、話し合いを締めくくる

(1) 『指差し呼称項目』を話し合って、全員の合意で決め、レポート用紙に記入する ・その場面で、◎印の危険がない（又は解消された）ことを「指を差し、呼称して」確認する項目 ・何を指差し、何を呼称して確認するか、を具体的に！
(2) 3回唱和することで、潜在意識にたたき込み、現実の場面での実行につなげる
(3) 話し合いの結果を実行することへの誓い合い・討議の終了のけじめ/よいイメージを潜在意識に植えつける